

中京テレビ **キャッチ!** にて甲冑ミュージアムの特集が放送されました!

放送の内容は、中京テレビ動画配信サイト

<https://www2.ctv.co.jp/news/2019/07/14/57730/>にてご覧頂けます!!



150分の3

森 直樹 (代表取締役社長)



先日、弊社のプラスチック甲冑が中部経済新聞より取材を受け、記事が掲載されました。その後しばらくして今度は中京テレビより取材を受けることに。夕方の情報番組「キャッチ！」にて放映されるということで午前中の二時間半、150分かけて本社の様子、そして甲冑ミュージアムを撮影、そしてインタビューがありました。普段はまず聞かれないような質問もあり、何度か取り直しをした場面も。数日後に放映になり、若干緊張しつつ放映を見たところ、約3分ちょっとの長さの映像にてまとめられていました。本社1階の裁断の様子、NCにて穴あけ、カット工程の様子を見せつつ、何を作っているか? 答えは...甲冑でした! とまるでクイズ番組のような構成でした。もちろん使われていない場面もいくつかありましたが、何よりも映像の繋がりや旨さにプロの編集技術の凄さを感じました。3分の成果を作るために150分の時間をかけて準備をするということは、一見無駄が多いようにも思えますが、それだけの材料があるからこそ面白い、充実した内容の映像が出来るのだと思いました。我々の仕事も一つの答えを出すためには様々な情報や経験があってはじめて出来ることも多く、またたくさんの知識や経験、つまり「引き出し」が多いほどその場面に適した回答が出来るということです。こういった時に繋がるか、すぐには見えないこともありますが、何事にも興味を持って取り組むことで、自分の「引き出し」を増やしていけます。

ルーティーン

牧野 光昌（企画営業部）



オリンピックまであと約1年となりました。東京五輪への出場を目指してきたアスリートにとっては、この1年は人生の中で最も貴重な1年になることでしょう。そして、チケット購入を目指してきた人には、この1か月が勝負になるかもしれませんね。さて、スポーツも仕事も勉学も、いざという時の『集中力』がとても重要です。いつでも完璧に出来る人は居ないのですが、日頃簡単に出来てしまう事が、大切な時に完璧を目指す気持ちが、強い緊張感やストレスを生んでしまい、本来の実力発揮出来ない現象をよく目にします。その為にアスリートが行っているのが「ルーティーン」を行う事で平常心を保ち、普段通りの集中力で本番に臨めるようにする事です。ルーティーンはただの習慣ではなく、目的を達成するための戦略だと言われています。普段から意識して毎回きっちりとルーティーンを行い、それが無意識の日常になって初めて、大事な時でもルーティーンを行う事ですぐに気持ちを「平常」の状態に戻すことができるツールになります。よく言われるのが『イチロー選手のルーティーンワーク』です。我々はアスリートではありませんが、お客様のゴルフコンペの一組目のオーナーになってしまったら、と考ただけで緊張しますね。「空振りしたら、どうしよう...。」私はゴルフで緊張した場面にあまり遭遇してないので、日頃は決まったルーティーンが無いのですが、緊張する事があれば、思いっきり3回程素振りをして、その後の全身の脱力感で緊張感が集中力に変わっていくのを感じながらスタンスに入るようにしています。最近では3回のマン振りでは体が「ミシミシ」という音をたてているのを感じて控えめにしていますが...。人間の脳は、ちょっとした事で切り替わります。自分の脳が安定モードから仕事モードに入る為のスイッチ、集中モードに入る為のスイッチ等は普段の自分の生活の中で作り上げておくといいでしょう。その為のルーティーンワークも自分で考え、動き、感じて、造り上げる事も仕事や生活や練習の一つであると感じております。『ワーク』というくらいですから、まずはアクションを起こしましょう。

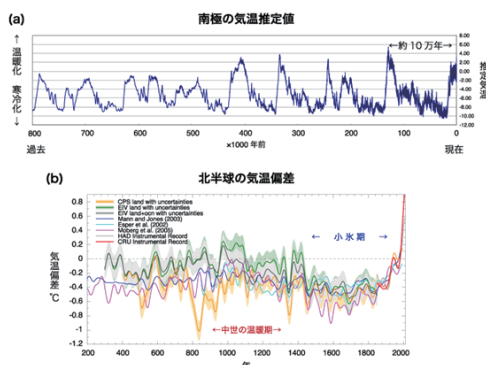
地球温暖化？

加藤 雅昭（企画営業部）



今、地球がおかしくなっている。高温、寒波、雹、大雪、台風等々またシベリアの万年凍土が溶けだしてきている。今年に入っても7/10ギリシャ・ハルキディキでの「超スーパーstorm」たった10分で死者7名、100名以上が負傷、風速100m以上の可能性もあったそうだ。7/9には南アフリカでは-9.4度、樹氷ができ、6月末から7月にかけてドイツのローテンブルクでは2.8度、ところがフランスでは46度スペインでも40度越える高温、山火事も発生している。しかしこれって温暖化なのか？私たちが知っている歴史はたかが数千年。4億4000万年前にはシベリアには草が青々と生え、マンモスが草を食べて生活していた。そこが今の永久凍土になってしまっている。そこがまた草原になってもおかしくはない話だが、問題はそのスピードが急すぎる。地球誕生後約45億年、その間に何度も氷河期と高温期を繰り返している。地層検査等により氷河期と間氷河期が約10万年の周期で起こっていることがわかっています。複数の原因が考えられますが北半球夏季の日射量変化が重要な要因であることがわかっています。このような地球の変動に明らかに流れが変わってきている。20世紀後半からの気温上昇速度は今までの上昇率の10倍ともいわれています。これはミランコヴィッチサイクルに起因する気象変動では説明ができないものになってきています。ではどうすればいい？京都議定書をきめたとおもったらCO2

世界2位の排出国のアメリカの離脱、CO2排出量1位の中国、3位のインドは開発途上国？ということで削減の義務がない。うーん、これでいいの？しかしアメリカは州によってはなんと連邦政府の考えとは無関係に自主的に排出ガス規制をしているところがある。カリフォルニア州、ワシントン州、ニューヨーク州の3州、またロサンゼルスやシカゴなど177都市がパリ協定で定めた排出削減目標を支持すると表明、他に多くの民間企業も同様な支持を示している。私たちが扱う石油化学製品も取り扱い方によっては温暖化の原因になってしまう。では私たちは何が出来る？温暖化だけでなく、地球環境をもっと考えなければ、私たちの子孫にきれいな海や川、空を残せなくなってしまいます。今、私たちの生活を見直す時になってきている気がします。小さなことから始めてみませんか？



無敵の人、孤独な人

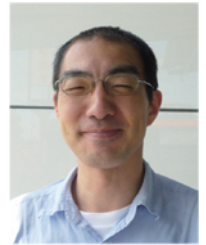
大石 耕平（東京オフィス）



5月28日川崎市登戸で起こった痛ましい事件は、テロだと考えている。被疑者のプロフィールには興味はない。ただの人殺しだ。僕らに出来ることは犠牲になられた方のご遺族に哀悼の祈りを捧げること、そしてテロ対策のように予防策と起こってしまったときの安全確保について考えていくことである。いちばんよろしくないのは、こんな凶行は防ぎようがない、と諦めてしまうこと。途方に暮れて諦めたくなるけれども、諦めたら何も変えられない。事件直後から被疑者を「無敵の人」と評したり、「自殺するなら一人で死ね」という意見をインターネットで多く見かけた。「自殺するなら一人で死ね」という感情は理解出来るけれども、私は「自死」は良くないと考えてきた。今回の事件のように、社会から断絶した状態の人間を作らない。そして断絶した人間の復帰が容易に出来る、社会に変えていくことがこのような事件を起こさないためには必要なのではないかと思う。つまり「無敵の人・孤独の人」=失うものがない人を生み出さないようにしていくことが大事という考え方である。しかし環境さえ整えれば、人は道を外さないようになるのだろうか。今回の事件の被疑者の情報が入ってきたとき、自分の友人を連想してしまった。その友人は新卒で入った会社で心身を壊して10年以上も部屋に閉じこもっている。地元に戻った時偶然彼に再会した。今でも昔の人間関係への強いこだわりと、10年社会を生きぬいてきた僕やその他の人間への劣等感の強さに驚いてしまった。経験や技術的なものではなく、そういったものが復帰への最大の障害になっているような気がする。要するに社会から断絶してしまった人間の中には、復帰への環境を整えて部屋から出しても適応するのが難しく、より深い底に落ちてしまうような人もいるのだ。それからは別に部屋に閉じこもっていてもいいじゃないか、そんな風に考えが変わってしまった。彼らを引きずり出すのではなく、そんな無敵の人の人生にもまだ失われていないものがたくさんあるのだと評価して実感させたほうが暴発は防げるのではないか。例えば、「引きこもりは恥ずかしいことじゃないからガンガンやろうぜ」といって、まだすべてを失っていないように感じてもらえばいい。正しい生き方を教えるだけでなく、ちょっとズレた生き方を認めることが無敵の人を武装解除できる方法だと感じている。残酷なことを言っているのはわかっている。下手をすると一人の人間を部屋の中に閉じ込め続けてしまいかねないからだ。それでも誰かが死ぬよりはずっとマシだと僕は思う。無敵の人にならないように、孤独の人にならないように。そのためには、自分なりの軸を中心とした、会社や仕事に依存しない自分なりの人間関係やコミュニティを形成しておくことが必要だろう。FBやインスタのフォロワーなんかよりももっと強く、フィジカルな関係性こそが、ある種の人たちにとっては老後の2000万円の生活費よりも必要になるのではないか。

10連休前半本州最南端

松井 宣和（製造部）



5月1日に皇太子様が天皇に即位するため1日が祝日になり、4月29日は昭和の日、5月3日は憲法記念日、間に挟まれた平日は国民の休日になり10連休です。毎年この時期は春の天皇賞があるので車で京都競馬場へ行きました。さんざんたる結果に…。夕食にニシンそば、デザートにはわらび餅を食べました。せっかくの長期休暇です、どこか遠くへ行ってみたい！これから紀伊半島を反時計回りで周って本州最南端和歌山県串本岬へ午前2時30分ごろ到着。2時間ほど仮眠してご来光を拝む。天気はいいが、地平線のかなた先は曇っていて朝日拝めず残念。それでも目の前に太平洋があって地球が丸いのが感じられる景色でした。串本島周辺を散策。伸びるアイスクリーム・トルコアイス。トルコ人の店員に買わせられました。テレビで見たことがあります、クリームがよく伸びる。食べてみるとキャラメルみたいで歯ごたえがあり、口に入れてもなかなか溶けず意外とおいしかったです。潮岬観光タワー潮岬灯台・潮岬神社・橋坑岩と自然が豊かで癒されます。食事は海鮮丼で生マグロを食べてきました。冷凍とは食感が違い味わいも違う、初めて頂きましたが値段が高い。さてこれから帰路、寄り道をして那智大社・速玉大社・本宮と寄るつもりが、時間が合わず断念して奈良へシカ肉を食べにいきました。ソテーに野菜炒め焼肉にハンバーグを注文しました。初めて食べましたが、若干匂いますね。そんなに気にはなりませんでしたが、脂が少なくヘルシーな感じかな。部位にもよるかもしれませんが美味しくいただきました。一度帰宅午後3時ごろ、ここまで約800キロの旅。その夜また出かけて連休後半は本州最北端へ車で片道1100キロ…。

おかげさまで
27周年♥

第27回

元気が出る森松展

Attack!

プラスチックの新しい時代が始まる

2019. 森松で過ごす充実の3日間!

9.12-13-14
木 金 土

www.morimatsu.net

森松のキャラクター
マモーリン®

MORIMATSU
27th Annual
Exhibition

赤坂迎賓館

金子 佐知子(東京オフィス)



一般公開が始まって今年で4年目の迎賓館赤坂離宮。昨年秋から19名以下の個人なら、本館と庭園に限って予約不要で見学ができるようになったのをご存知ですか？これに完全予約制の和風別館(トランプ大統領が初来日時、鯉の餌をザザーっと撒いた場所)も加え、87歳になる実母を誘って見学に行ってきました。迎賓館は1909年に大正天皇の東宮御所として建てられたのが始まりですから、とにかく広くて豪華絢爛！見学は自由なのですが、館内での写真撮影は禁止されていますので、興味のある方は内閣府のHPをご覧ください。【<https://www.geihinkan.go.jp>】東京に住んでいながらこんな別世界があるとは全く知りませんでした。さて今年は母をどこに連れて行ってあげようか、楽しく思案です。

